

本作は長い。
そう感じない人も、登場人物の多さは感じるだろう。
そういう場合、登場人物を忘れてしまうこともある。
そこで、作者はハタと考えた。
ここらで、概要が必要なのではないかと。
沢山の人を読んでくれているわけではない。
しかし、小説は作者と読者の一対一が基本である。
一対一の読者のために、登場人物紹介を含めた、概要を記す。

* * *

一九七〇年。

通称【死んだる団】が、世間を騒がせていた。

【死んだる団】の主な構成員は、以下の通り。

- 過激な反体制主義者の、高杉京平。
- 元全共闘闘士の、辻中亀夫。
- 爆弾マニアの、藤上吾郎。
- 『暗殺論』の思想家・朝山完吉の息子の、京大生・朝山善吉。
- 大物政治家・松本玄信の息子の、東大生・松本大海。
- 清水印刷の社長、清水清。
- それに紅一点、立花雪絵である。

●私立探偵・舟木英介は、●売れっ子ライターの山内参三から、【死んだる団】の調査を依頼される。

舟木英介は、●恋人の川上真希を拉致した犯人が、【死んだる団】の辻中亀夫であると推察していた。

山内参三は、別口で、●伝説的私立探偵・麻暮正作にも【死んだる団】の調査を依頼する。

なお、山内参三は、たまたま●立花雪絵を匿うことになる。

●麻布署の刑事花井勇太と●寒崎武士警部に雪絵は追いつめられるが、山内は●後輩の新川次郎弁護士の助けを借りて、雪絵を助け結婚することになる。

麻暮正作は、【死んだる団】の黒幕を、●旧敵荒野大三郎だと踏んでいた。

麻暮と舟木は、各々独自に調査を開始するが、舟木は朝山完吉の地元京都へ向かい、麻暮は秩父の新興宗教〈愛信会〉のメッカに侵入する。

ほぼ同じ頃、●新宿署の敏腕刑事・山風順一は、追っていた藤上吾郎の口から【死んだる団】の存在を知る。

やはり京都へ向かった山風は、そこで〈朝山完吉殺人事件〉に遭遇する。

山風は、●相棒の（花井勇太の弟）花井健太や●手下の小林勘助（●麻暮の手下である小林金助の弟）の力を借りて、真相究明に尽力するが、志なかばで帰らぬ人となる。

なお、山風順一の一周忌が済んだあと、花井健太は山風の一人娘と結婚、希望して入り婿という形をとり、山風健太となった。

それまで朝山完吉としばし共に居た舟木は、●政界の〈ドン〉と呼ばれる松本玄信のボディガードを、再度やることになるが、松本が、●芸術界の巨匠・北山極齋と同一人物であることに気づく。

さらに、辻中亀夫の自死によって、●〈愛信会〉の教祖・日下典禪とも、同一人物であることを知る。

●〈日刊スクープ〉名古屋支局のスター記者・小金井豊は、大臣を刺して飛騨山中に逃げ込んだ、高杉京平との単独会見に成功、●編集局長の山本久治にハッパをかけられながら、【死んだる団】の本質に迫る。

一方、朝山善吉の日記を盗ませた麻暮正作と、山風順一から示唆を受けた、相棒刑事・花井健太は、江の島《秘龍窟》に潜入する。

●長谷在住の流行作家、東剣市から紹介された、●郷土史家の内田晴彦から、麻暮は《秘龍窟》の存在を教えてもらったのである。

花井健太は、《秘龍窟》で【自殺請負所】＝通称【D】なるものを発見する。

また、【死んだる団】と【自殺請負所】の繋がりを知る。

かたや麻暮正作は、●荒野の片腕、川上宙衛門所長を倒し、荒野大三郎と決闘の末、共に海中に没する。

荒野大三郎こそ、松本玄信であり、北山極齋であり、日下典禪であった。

物語は、ここで終わるのではない。

半世紀経った。

二〇二〇年に話は突入。

花井勇太と山風健太の、元刑事の兄弟が、すでに老齢になっている山内参三と舟木英介を訪ねる。

荒野大三郎が活着しているのではないかと考え、相談に行ったのである。

同じ頃、麻暮正作は、手下の小林金助と鎌倉でひっそりと暮らしている。

麻暮は運良く助けられたものの、鉄仮面を付けている。

元刑事兄弟も麻暮たちも、ともに、鎌倉山の洋館が臭いとにらむ。

麻暮と山風は、かつて「秘龍窟」にともに潜入した体験から、今回もともに潜入することとする。

荒野の片腕として、執事風なことをやっている、●松本玄信の元秘書木下弁太郎は、金助に殺される。

麻暮と山風が見たものは、巨大な水槽のなかの「オバケクラゲ」とでも言いたい物体で、それこそが、荒野大三郎の正体であった。

麻暮は、装備された車椅子を発進させて、「オバケクラゲ」を木っ端微塵に破壊し、自らも雲散霧消する。

以上が第四章までのあらすじであるが、ここまではまだ全容の半分にも充たない。それどころかいままでは「序章」と云っても、いいのかもしれない。

さらに物語は、二〇三〇年へと継続するのである。

これからが「本章」。

だからあらすじはここまで。

新しい重要登場人物としては、●オカマの私立探偵、郷田狂介、●そのお得意様である、榊奈々、●その娘であり、荒野大三郎の曾孫である榊美々、●金助の実子で、元大泥棒の竹田金之助、●麻暮の新しい片腕である、殺人鬼の玄治、●介護ロボットのタナカ、●自称「朝山完吉の生まれ変わり」闇猫と●猫姫、そして、●荒野に興味を深い持つ猪鹿蝶子、●その従妹美村麗子、などなど。

* * *

余計にややこしくなったきらいもあるが、相関を一目できるかもしれないし、作者の志向を垣間見られるかもしれない。

それにしても、こうして一望してみると、作者のお気に入りみんな早く死んでいる。

辻中亀夫、朝山完吉、山風順一である。

これはもちろん、作者の意図ではない。

哀悼。